

**2022年3月期 第3四半期
決算発表 質疑応答**

(受注について)

Q 1. 全国的に新型コロナウイルスの感染者数が増加していますが、営業活動への影響はありますか。

A 1. 1月下旬より出勤率を50%以下とする等行動制限を実施していますが、感染対策の徹底やインサイドセールス等を活用した営業活動を継続しており、大きな影響はありません。

Q 2. 足元の受注動向、および通期の受注計画4,800億円の達成見通しについて教えてください。

A 2. 足元の受注動向においては新型コロナウイルス感染再拡大の影響がみられますが、新型コロナウイルス発生当初に比べ、お客様の投資マインドは徐々に回復しており受注拡大は可能と考えております。4,800億円の受注獲得に向け邁進してまいります。

**Q 3. 営業担当者数が減少していますが採用活動状況について教えてください。また一人当たり受注高が表す生産性について今後高めていくことは可能でしょうか。
(決算説明会資料 p15)**

A 3. 採用活動については募集費用投下による応募者数の増加、面接から採用までの期間短縮化等、採用活動に注力しております。IT化やコロナ禍による営業活動の制約がなくなることで訪問や面談に充てる時間が増え、生産性は高めていくことができると考えております。

Q 4. 建物商品の値上げ後の受注への影響について教えてください。

A 4. 過去の値上げ時の動向を踏まえると、値上げの影響は1、2ヶ月程度で収束すると考えています。

(完成工事高・完成工事総利益について)

Q 5. 新型コロナウイルスの感染が再拡大していますが、工事の進捗に影響はありますか。

A 5. 現時点では、工事現場閉鎖や入場制限の強化などはおこなっておらず、新型コロナウイルスによる工事進捗への影響はありません。

Q 6. 当期及び来期の完成工事総利益率の見通しについて教えてください。

A 6. 当期の完成工事総利益率は、ウッドショック等の影響により、25%前後を見込んでおります。また、来期については輸入資材の価格動向に左右されますが、販売価格の値上げの影響を踏まえ当期以上の利益率を確保したいと考えております。

(不動産事業について)

Q 7. 全国的に入居率が好調に推移していますが、背景と今後の不動産事業の利益見通しについて教えてください。(決算説明会資料 p46)

A 7. 新型コロナウイルスの影響により退去数が少ない状況が続いており、全国的に高い入居率を維持しております。今後については新型コロナウイルスの収束とともに、退去数が従前の水準となることを踏まえ、不動産事業総利益の伸び幅は鈍化すると考えます。

(その他)

Q 8. 中期経営計画「新5カ年計画」を見直す予定はありますか。

A 8. 新型コロナウイルスの状況を踏まえ、中期経営計画の見直しを検討しており、進捗状況と合わせて公表したいと考えております。

Q 9. M&A等の成長投資が限定的で自己資本比率は上昇傾向ですが、株主還元方針の見直しは検討していますか。

A 9. 資本出資やM&A等の成長投資を継続する予定であり、株主還元方針については変更ありません。

以上